

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

令和4年が始まりました。一昨年から広がったコロナ感染が一向に下火になる気配がありません。幸い日本は現在相当抑えられてはいますが、諸外国では一日20万人を超える規模で感染が広がっているところもあります。昨年11月に南アフリカ共和国の科学者が発見した新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）があつという間に世界中に浸透したことは、世界がグローバル化時代に入っていることを我々に強烈に知らしめています。変異体オミクロン株がどこで発生したかは別として、発見されてから2ヶ月間で世界中での感染が確認されたことは、今後世界の至る所で発生する可能性がある変異株が瞬く間に地球を汚染することを意味し、そしてその対処方法がワクチン投与や飲み薬の使用のみでは、負のスパイラルになり兼ねず、本当に心配になります。全世界において、兎に角コロナ感染が一刻も早く収束することを願うばかりです。

さて、弊社は創立20周年を迎えています。月日が経つのは早いもので、起業後こんなに時が過ぎたのかと改めて感じております。20年という歳月は、所謂成人式を迎える期間と同じで社会的にも大きな節目と考えられるものです。起業した際に、「企業とは儲けてなんぼであり、できるだけ利益を出すことが大事で、その結果会社は維持できる」ということを聞かされていましたが、本当にそのような考えでいいのだろうかと疑問を持ちました。また、「会社は株主のもの」という考えが当時はメインでしたが、これもおかしいのではと思っていました。そこで企業理念を「競争から共生へ」と定め、社会貢献を念頭に入れたビジネスモデルを構築することにしました。大企業優先的な発想の儲け主義（高い内部留保も含め）ではなく、程々の利益を追求し（つまり維持できる範囲で利益を確保し）、企業目線ではなく、企業と社団法人という組織体の中間に立ち位置を確保して持続的な営業活動を維持する考え方にしたのでした。そして、弊社の主なビジネス領域である「地域の活性化」の取り組みにおいては、持続可能な循環型社会構築を目指すために、個人の社会的責任（PSR=Personal Social Responsibility）、地域の社会的責任（ASR=Area Social Responsibility）及び企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility）の三つのファクターの相互関係（WIN=WIN=WIN構造）が重要としました（PSRとASRは私の造語）。その関係図が次の通りです。

ポイントカードサービスを活用した地域活性化モデル (地域活性化の新基軸)

- 共生の概念に基づくシステム
- 市民の意思が社会貢献に繋がるシステム
- 地域として持続可能性があるシステム



この関係図は、日本古来の「三方良し」の考え方とも共通したもので、今から見直しても適切であると思います。特に、この PSR の記述の中に大変重要なエッセンスがあります。それは「失効ポイントを地元へ寄附」することです。ポイントビジネスにおいて、失効したポイント（雑収入）を利益に回すのではなく、寄附するということは所謂「禁じ手」に近い行為です（企業経営をより不安定にさせることと言えましょう）。大企業ならいざ知らず中小企業ではあり得ない行為とも言われました。

弊社は起業以来毎年この寄附を続けています。起業当時は「寄附すること」の意味がそれほど深く理解できていたとは思いませんが、今は「寄附がエッセンス（本質）である」と確信しています。

そして、「会社はなぜ存在するのか」、「どういう働き方がいいのか」、また「会社の利益とは何なのか」等の命題を常に頭の片隅に置きながら、この「サイモンズ・ビジネス」というささやかな実験をこれからも押し進めていければと思います。

引き続き皆様方の温かいご支援・ご愛顧をお願い申し上げます。

令和4年元旦

株式会社サイモンズ
代表取締役社長
斉川 満



(立山室堂：昨年11月撮影)